

インターバンクの声（2016 年 8 月 10 日）

英国の欧州連合(EU)からの離脱の是非を問う国民投票を契機に、多くの個人投資家が新たにポンドの取引を始め、ポンドの取引に興味が湧いた方々も増えてらしい。そのポンドだが、国民投票で離脱が決まった後、英経済の先行き不透明感が増したことで7月上旬から中旬にかけて1.30ドルを割り込む水準まで下落していたが、その後は極端な悲観的見通しが薄れたことで1.30ドルを回復していた。しかし、先週末あたりから再び売り圧力が増している。もちろん先週4日の下落は、イングランド銀行(中央銀行)の利下げ決定が大きな要因だが、昨日も英シンクタンクの国立経済社会研究所が、7月の英経済成長率がマイナス0.2%(暫定値)となったことを発表し、同研究所のリサーチフェローは、英経済が2017年末までに定義上のリセッション(景気後退)に陥る確率が50%となっていると述べている。今後の英国の経済指標に同研究所の見通しを裏付けるような結果が続けば、追加利下げの話も持ち上がりやすくなるだろう。ニューヨーク市場での1.30ドル割れは一時的だったが、割り込む時間が長引けば再びポンドが売り圧力に晒されることになりそうだ。

提供:SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。